

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

訪問ステーションてとと洲本(訪問看護)

高齢者事業

訪問ステーションてととと洲本(訪問看護)

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 人員体制は2023年は看護師3名、理学療法士4名でスタート。8月31日で看護管理者が異動、9月より新入職看護管理者が就任。また9月より理学療法士1名が週1日の出向勤務が開始。12月より看護師が1名入職し、12月以降は看護師4名、理学療法士4名で稼働。サービス提供の全体収益は前年度比99.79%と減収。(部署別内訳では看護師前年比95.1%、リハビリ前年比103.1%)
 - 売り上げ単価は前年比100.4%と同程度。
 - 稼働率
 - 稼働の延べ人数は全体で前年度比99.2%。(内看護師対象は前年度比98.5%、リハビリ対象は前年度比100.5%)
 - 看護師の定期巡回・随時対応サービス連携対象の利用者は前年度月平均4.9人から月平均3.5人と前年比71.4%へ減少。連携先事業所が2024年3月で事業終了の為、連携終了となる。
 - 収支改善
 - リハビリの訪問件数が前年比100.5%、通常40分に対し単価が下がる20分訪問が前年比158.8%と増加あったが、時間内単価の高い医療保険対象も前年比133.1%と増加。単価の面から収益増につなげることができた。
 - リハビリ一人当たり1日平均訪問件数は前年比87.2%(4.9件、管理者除く)と減少。
 - 看護師の訪問件数が前年比98.2%、要支援が前年比83.8%と減少。要介護30分訪問が前年比92.1%と減少だが、単価の高い1時間訪問は前年比137%と増加を認める。医療保険は約98%と全体売り上げは前年比95%と減少。単価割合の向上には至らず。
 - 全体での医療保険利用件数は前年度比112.4%と増加を認める。
 - 定期巡回・随時対応サービス連携の利用者は前年比72.4%。令和6年3月に連携先事業所の業務終了とともに、サービス連携が終了となる。
 - サービスの質
 - コロナ5類移行後も感染予防対策について継続して取り組みを行い、ご家族様

の理解・協力を得てサービス提供の継続できる環境づくりに努めた。8月に利用者・家族間でコロナ感染でサービス中断期間があったが、職員の罹患はなくサービス提供にあたることができた。

- 看護師訪問利用者に対して、リハビリの面からのアセスメントを行い事業所全体の対応によって新たな訪問サービスの必要性や緊急時対応の環境整備の必要性などの提案を行い、利用者の安心提供につながるケースを作ることが徐々に増えてきている。
 - 医療保険対象で、看護、リハビリ両面から頻度の多い訪問提供を進めるケースをサービス提供を実施し緊急時の対応含め安心・安全を提供できる関わりを進めていくことができた。
 - 利用者様や家族様、ケアマネジャー等から日常の困りごとや訪問者の対応で気になる点について、情報提供、連絡を進めているが、入院時の病院・診療所への情報提供が少なかった。
 - 精神的にゆとりある状態で落ち着いてサービスにあたれるように効率的な訪問スケジュールを組むようにしているが、一部負担が偏ることがあり、改善を図る取り組みを実施している。
- 人材の確保、育成
 - 2023年度は2名の看護師(新管理者、一般職員)があり、訪問業務の基礎・概論から、日常業務について研修や同行訪問を通じて研修を実施。
 - 職種、経験や個人の特性に沿った研修や他職種の観点を持てるようにケースカンファレンスを行い、業務の質を高めるよう取り組みを継続している。
 - 各職種間での利用者ケースの相談機会が増え、対応の幅を広げるケースにつながっている
 - 個人でも効率的な業務遂行を計画立てられるように、訪問スケジュールの検討や業務実績の見直しを実施。
 - 地域貢献活動
 - 地域ケア会議(リハビリ専門部会)、圏域訪問看護ステーション協議会に対し、Web会議や現地参加を継続し、各種の情報提供や連携を図っている。
 - 2023年度定期巡回・随時対応サービス連携委託業務を実施あったが、2024年3月に閉所となり、連携終了となる。
 - 改修工事
 - 実施無し
 - その他
 - 精神科訪問基本療養費の対象者の訪問受け入れ態勢継続
 - 医療保険の専門管理加算(口:特定行為)の訪問実績あり

- 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
延べ人数	11,320名	11,236名(▲84名)	11,792名(+556名)
平均要介護度	1.9	1.9(±0)	1.9(±0)
単価(人・日)	4,041円	4,059円(+18円)	4,042円(▲17円)

2023年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

1. 2023年度 事業報告の概要

- 業績等
 - 収益
 - 全体の収益は居宅系事業、入所事業とも増収となった事業が大半であるが、通所事業等で一部減収あり。
 - 物価高騰に係る補助金等あり。
 - 稼働率
 - 入所系サービスは、ケアホーム花畑ユニット型を除き増加。居宅系サービスは、かおりの丘通所系サービスにおいて稼働低下あり。
 - 毎月の収支把握の上、人員配置の適正化等も、業務の効率化と合わせ分析を進めた。
- サービスの質
 - 地域ボランティアを積極的に招く等、利用者様のQOL向上を目的とした余暇時間を企画した。
 - 面会制限の解除・家族会の開催などで施設とご家族との情報共有の場が増え、信頼関係を深める機会を増やすことができるようになった。
 - 外出・レクリエーションなど積極的に行い利用者様の活動意欲も高まった。
 - 個々の技術面のみならずチームとしてのサービス提供体制を確立する為、他職種連携の機会、体制作りを努めた。
 - 虐待通報案件等の事故要因についての検討調査、第三者的な視点での提案も鑑み分析、改善に向けた取り組みを開始。
 - ケアの質の向上の為、施設内研修だけでなく、ケアアドバイザー等による外部の指導を受ける。専門職倫理、虐待防止法等その他関連法令に関する理解の浸透を図った。
 - 各種委員会等を適正に運営しサービスの点検を行った。
- 人材の確保、育成
 - 外国人介護人材の定着。特定技能にて在留中の介護職員の就業継続支援を行った。
 - 未経験者の採用を積極的に行い、介護職員の人員安定化をはかった。
 - 認知症基礎研修の受講支援の実施。
 - ユニットリーダー研修受講促進。
 - 職員のモチベーションの維持とストレスケアの為のMTの機会を設置。

- 座学だけでなく実地研修の積極的実施。
- 法人、グループ内の連携
 - 相互に連携、協力体制をもち、ノウハウなどの利点を最大限に生かす。
 - 重大事故発生時や、虐待防止法等の法令に触れるような違反、行政指導があった場合は、法人の各拠点の代表者により協議を行った。対応進捗や支援状況についても法人内3拠点＋介護福祉事業部に共有。事態の早期収束と改善に向かうようガバナンス機能の維持、必要な支援について協議の為連携を維持に努めた。
- 地域貢献活動
 - 青空スーパー等、地域交流の場を提供。新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、地域ボランティアや理容室、移動販売店などを積極的に招いた。
 - 福祉協議会主催の「福祉の作品展」に利用者が作成した書道や手工芸品などを出品。
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続の為、各事業所会議等への参加を継続した。
- 新規事業、改修工事
 - 特記無し。
- 新型コロナウイルスへの対応
 - 5類移行後も標準予防策、環境整備など感染対策、職員への注意喚起継続した。
- 新型コロナウイルス感染症に関する補助金
 - コロナ小学校休業両立支援補助金
 - 事業継続支援事業補助金
- 物価高騰・水光熱費高騰に関する補助金
 - 物価高騰緊急対策支援金
 - 物価高騰にかかる特別給付金
 - 高齢者施設原油価格物価高騰対策支援金

2. 運営状況(稼働率、利用者数)

※()の数値は対前年度の増減

高齢者事業

- 特養(稼働率)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
特養かおりの丘(入所)【60名】 (ショート)【10名】	98.2% 59.0%	101.1%(+2.9%) 63.5%(+4.5%)	99.0%(▲2.1%) 80.0%(+16.5%)
ヴィラー宮(入所) 【20名】	91.6%	91.9%(+0.3%)	98.0%(+6.1%)
ヴィラ泉(入所)【110名】 (ショート)【10名】	95.6% 119.7%	97.6%(+2.0%) 110.5%(▲9.2%)	98.0%(+0.4%) 99.0%(▲11.5%)
ケアホーム花畑 (ユニット型入所)【72名】 (ユニット型ショート)【12名】 (従来型)【36名】	94.3% 78.6% 86.4%	90.5%(▲3.8%) 76.9%(▲1.7%) 97.2%(+10.8%)	90.0%(▲0.5%) 70.0%(▲6.9%) 98.0%(+0.8%)

- 通所介護(稼働率)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
かおりの丘デイサービスセンター 【35名】	79.3%	63.7%(▲15.6%)	70.0%(+6.3%)
平成デイサービスセンター泉 【20名】	76.4%	83.2%(+6.8%)	86.0%(+2.8%)

- 訪問看護(延べ人数)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
訪問ステーションてととと洲本	11,320名	11,236名(▲84名)	11,792名(+556名)

- 訪問介護(延べ人数)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	5,852名	7,500名(+1,648名)	12,630名(+5,130名)

- 居宅介護支援(ケアプラン数)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
かおりの丘居宅介護支援事業所	660名	723名(+63件)	700名(▲23件)

障がい者事業

- 居宅介護・重度訪問介護(延べ人数)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	1,564名	1,763名(+199名)	1,760(▲3名)

- 移動支援(延べ人数)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
かおりの丘ホームヘルプサービス	298名	303名(+5名)	310(+7名)

その他事業

- 在宅介護支援センター(延べ人数)

事業所名	2022年度	2023年度	2024年度 目標
かおりの丘在宅介護支援センター (訪問)	325件	309件(▲16件)	400件(+91件)
(電話相談)	224件	225件(+1件)	200件(▲25件)
(関係者会議)	117件	119件(+2件)	120件(+1件)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】

かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】

かおりの丘ホームヘルプサービス

(訪問介護(予防含む)、障害福祉サービス:居宅介護)

その他事業

かおりの丘居宅介護支援事業所

かおりの丘在宅介護支援センター

高齢者事業

かおりの丘(特養)【定員:入所-60名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 排せつ支援加算(Ⅰ)、科学的介護推進体制加算(Ⅱ)、安全対策体制加算、栄養マネジメント強化加算の算定継続。
 - 出来るだけ早期に待機者への案内を行うことで、稼働率の低下を緩和し、増収となった。
 - 稼働率
 - 利用者様の健康管理に努め、安定した入所状況継続の取り組みを行った。
 - 積極的に事業所の訪問、毎月の広報誌作成による広報活動を継続し、申込者、新規利用者様の獲得に努めた。
 - 収支改善
 - 広報活動や事業所訪問を継続し、新規利用者様の獲得に繋がった。
 - サービスの質
 - より良いサービスに繋げるため、多職種連携をより密に行った。
 - 定期的に行事を企画し、日々のレクリエーションも少人数でも楽しめるように考え、取り組み、利用者様へのサービスの維持に努めた。
 - かおりの丘においての2023年5月の虐待通報案件を受け、その後の対応として、施設の現状、虐待案件に至った要因について、職員の意見、虐待防止委員会による検討調査、第三者的な視点での提案も鑑み、「入居者のここで暮らしたい」と思える環境改善に向け取り組みを実施。
 - ケアの質の向上の為、施設内研修だけでなく、ケアアドバイザー等による外部の指導を受ける。専門職倫理、虐待防止法等その他関連法令に関する理解の浸透を図った。
 - 各種委員会を適正に運営しサービスの点検を行った。
 - 新型コロナウイルスの第5類移行により、制限されていた面会や外出等の推奨をし、家族様と過ごす時間を確保した。
 - 人材の確保、育成
 - 外国人介護人材の定着。継続して就労出来るよう支援した。
 - 地元のハローワークその他、効果的な求人促進活動をより活発に行った。
 - 職場環境の見直し、職員のモチベーションの維持とストレスケアの為、話す機会を設けた。
 - 介護福祉士合格者あり。より充実した介助、支援体制の整備を進めた。

- 研修の実施
 - AED訓練や、BCP訓練、座学だけでなく実地訓練も積極的に行った。
- 地域貢献活動
 - 事業所、法人として地域に根差した福祉サービスの提供を継続するため、各事業所会議等への参加を継続した。
 - 施設行事に地域ボランティアの受け入れを行った。
 - 地域のパン屋さんに訪問販売の場所を提供。
 - 地域の理美容室の方に来ていただき散髪をして頂いた。
- 主な指標

○ 入所 ※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	98.2%	101.1%(+2.9%)	99.0%(▲2.1%)
平均要介護度	4.0	4.0(±0)	4.0(±0)
単価(人・日)	11,436円	11,520円(+84円)	12,381円(+861円)

○ ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	59.0%	63.5%(+4.5%)	80.0%(+16.5%)
平均要介護度	3.0	2.6(▲0.4)	2.8(*0.2)
単価(人・日)	10,996円	10,891円(▲105円)	11,141円(+250円)

かおりの丘デイサービスセンター(通所介護)【定員:35名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 新規利用者の獲得などは継続したが、登録利用者の入院や施設入所が多く、前年度の比較で減収となった。
 - 稼働率
 - 前年度との比較で稼働率は15.6%減少した。
 - 積極的な事業所訪問を実施し、新規利用者の獲得に努めた。
 - 収支改善

- 広報活動を行い、新規利用者の獲得に続けることができた。
- サービスの質
 - やりたいことができるデイを目指し、職員全体で取り組むことができた。
 - 利用者の状態や家族の希望に合わせた、短時間デイの利用やサービス提供を行った。
 - 利用者の状況などが変化した場合は事業所との積極的な連携を行った。
- 人材の確保、育成
 - 運転手等、補助的な人材の確保。
 - AED訓練や、BCP訓練、座学だけでなく実地訓練も積極的に行った。
- 地域貢献活動
 - 通所介護事業所連絡会への参加。
 - 地域イベントに参加し、作品展示を実施。
 - 地域のお菓子屋さんを招いての行事等、地域交流を促進する企画を行った。
- 改修工事
 - なし

● 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	79.3%	63.7%(▲15.6%)	70.0%(+6.3%)
平均要介護度	2.4	2.4(±0)	2.5(+0.1)
単価(人・日)	9,128円	8,876円(▲252円)	9,200円(+324円)

かおりの丘ホームヘルプサービス

(訪問介護(予防含む)、障害福祉サービス:居宅介護)

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 収益は介護保険サービスの登録者数増により増収。
 - 単価は介護保険サービスについては、特定事業所加算Ⅱに変更になったため下がっている。
 - 稼働
 - 訪問介護員1人一日5件の目標は達成ならず。
 - 収支改善
 - 訪問スケジュールを把握し、空き時間を埋めることに努めた。

- 障害福祉分野の利用者の受け入れを積極的に行った。
- サービスの質
 - より良いサービスにつなげる為、職員間での情報の共有を密にした。
 - 関連機関との連携を大切に行なった。
- 人材の確保、育成
 - 市内で訪問介護事業所閉鎖の為、退職となった職員を受け入れた。
 - AED訓練や、BCP訓練、座学だけでなく実地訓練も積極的に行った。
- 地域貢献活動
 - 淡路市訪問介護事業所連絡会、淡路障害者自立支援協議会への参加と連絡会主催の研修会に参加。
- 改修工事
 - なし

● 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

○ 訪問介護(予防含む)

介護・予防	2022年度	2023年度	2024年度 目標
延べ人数	5,852名	7,500名(+1,648名)	12,630名(+5,130名)
平均要介護	2.3	2.2(▲0.1)	2.4(+0.2)
単価(人・日)	3,879円	3,565円(▲314円)	3,300円(▲265円)

○ 障害福祉サービス:居宅介護

障害	2022年度	2023年度	2024年度 目標
延べ人数	1,564名	1,763名(+199名)	1,760名(▲3名)
単価(人・日)	3,528円	3,457円(▲71円)	3,500円(+43円)

○ 障害福祉サービス:移動支援

障害	2022年度	2023年度	2024年度 目標
延べ人数	298名	303名(+5名)	310名(+7名)
単価(人・日)	2,300円	2,300円(±0円)	2,300円(±0円)

その他事業

かおりの丘居宅介護支援事業所

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 給付管理数増加により増収となった。
 - サービスの質
 - 主任介護支援専門員 1名(管理者兼務)
介護支援専門員 1名(在宅介護支援センター兼務)
計2名で運営。
担当利用者様の情報共有と連携を意識して、担当ケアマネ不在時にでも対応が可能な体制づくりを実施
 - 各関係機関と創発的ネットワークを形成するために、関係者会議等へ積極的に参加。(包括と市内事業所連絡会が主催する会議等)
 - 人材育成・確保
主任介護支援専門員の元、制度や新たな社会資源や地域活動等を情報を集め利用者様により良いサービスおよび活動を提供することに努めた。
 - 地域貢献活動
 - 在宅介護支援センター機関の役割を生かした居宅介護の説明会を地域で開催
 - 各地区での研修会講師(認知症サポーター養成講座等):2件
在宅介護支援センターと居宅介護支援事業所の両方の立場で参加

- 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
ケアプラン数	660名	723名(+63名)	700名(▲23名)
平均要介護度	2.1	2.2(+0.1)	2.3(+0.1)
単価(人・月)	10,892円	11,311円(+419円)	11,400円(+89円)

かおりの丘在宅介護支援センター

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 居宅介護支援の業務を兼務することで減収となる。
 - サービスの質
 - 地域支援事業による講座開催、広報活動。地域での活動に参加。
 - 認知症サポーター養成講座、健康福祉によるミニ勉強会、小学校や高校、一般企業にも講義。
 - 各居宅介護支援事業所、行政関係者や、地域の役職(民生委員、地域キーパーソンとなる住民等)とのつながりをサポートする係として活動。
 - 地域貢献活動
 - 各地区での研修会講師(認知症サポーター養成講座等):8件
- 主な指標 ※()の数値は対前年度の増減

相談内訳	2022年度	2023年度	2024年度 目標
訪問相談件数	325件	309件(▲16件)	400件(+91件)
電話相談件数	224件	225件(+1件)	200件(▲25件)
関係者会議件数	117件	119件(+2件)	120件(+1件)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

高齢者事業

ヴィラー宮(地域密着型介護老人福祉施設)【定員:入所-20名 ショート空床利用】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 排せつ支援加算(Ⅰ)、科学的介護推進体制加算(Ⅱ)、安全対策体制加算、栄養マネジメント強化加算、日常生活継続支援加算(Ⅱ)の算定継続。
 - 日頃から各事業所との連絡・調整を行い、上半期は空床利用により、稼働率低下を緩和し、下半期は長期入所の安定的稼働と介護度の上昇により前年度増収となった。
 - 稼働率
 - 利用者様の健康管理に努め、安定した入所状況の継続ができるように取り組んだ。
 - 定期的なHPの更新や広報誌の作成による広報活動を継続し、申込者・待機者の確保ができた。
 - 収支改善
 - 人員配置の適正化を進めた。
 - 介護度の高い入所者の受け入れが多かった。
 - サービスの質
 - 季節ごとの行事や誕生日会、日頃のレクリエーション活動や体操を実施して、楽しみを持って生活して頂ける様に努めた。
 - 外出企画やボランティア活動の受入れを行い、行事活動の充実を図ってきた。
 - 毎月一回、介護職員によるケア会議を実施して介護方法の検討・見直しを持つ機会を作り、サービスの質の向上に努めた。
 - ケアの質の向上の為、施設内研修だけでなく、ケアアドバイザー等による外部の指導を受ける。専門職倫理、虐待防止法等その他関連法令に関する理解の浸透を図った。
 - 各種委員会を適正に運営しサービスの点検を行った。
 - 人材の確保、育成
 - 各委員会会議や勉強会を実施して、他職種との話し合いや知識を深めていく機会を設けた。
 - 様々な時間帯のパート契約を行い、必要な時間帯での人材を確保した。
 - 介護キャリア段位制度(アセッサー)取得の取り組みを行った。
 - 地域貢献活動
 - 新型コロナウイルスの第5類移行により、年度を通して施設での運営推進会議

を行う事ができた。

- 2ヵ月に1回、地域の理美容室の方に来てもらい散髪して頂いた。
- 地域ボランティアの受け入れを積極的に行った。

- 主な指標

- 入所(ショート含む)

※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	91.6%	91.9%(+0.3%)	98.0%(+6.1%)
平均要介護度	2.9	3.3(+0.4)	3.5(+0.2)
単価(人・日)	12,965円	13,460円(+495円)	13,500円(+175円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

高齢者事業

ヴィラ泉(特養)【定員:入所-110名 ショート-10名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 特養・ショート全体での収益は、前年度より増加した。
 - ベースアップ等支援加算が通年で算定したことにより単価が増加した。
 - 稼働率
 - 特養
 - 何度か新型コロナウイルス感染症のクラスターを出しながらも、特養の稼働率は向上した。入院者が多く出たが、新規の申込者へのアプローチやロングショートの方を入所に切り替えを行うことで、年度後半から安定した稼働率を保つことができた。
 - ショートステイ
 - 前年度に比べ稼働率は減少したものの、リピーターも多く110.5%と高い稼働率を保つことができた。
 - 収支改善
 - 医療対応に必要な利用者の受け入れにより、医療対応促進助成金の申請を実施
 - 横浜市物価高騰対策助成金を申請
 - 新型コロナウイルス感染症のサービス提供体制確保事業補助金を申請
 - サービスの質
 - 新型コロナ感染により、クラスターが発生したが、日頃からの準備や研修の効果もあり、施設全体で協力し最小限の拡大にとどめることができた。
 - 面会制限の解除・家族会の開催などで施設とご家族との情報共有の場が増え、信頼関係を深める機会を増やすことができるようになった。
 - 外出・レクリエーションなど積極的に行い利用者様の活動意欲も高まった。
 - QOLの向上を目標とし、「ゆっくり入浴」を実施したことで、利用者のペースで入浴していただくことができ、喜んでいただけた。
 - 人材の確保、育成
 - 未経験者の採用を積極的に行い、介護職員の人員安定化をはかった。
 - 離職率の低下により、安定した職員の確保ができ、サービスの向上に繋がった。
 - 介護職員20名がユニットケア研修に参加し、自分たちのケアについて見直す機会ができ、研修で学んだことをケアに繋げることができた。

- 地域貢献活動
 - 地域包括事業で毎週ヴィラ泉の駐車場を青空スーパー（ローソン、障害者施設のパン販売）を実施した。
 - 地域のイベントの際に、施設車の貸出や職員の派遣を積極的に行った。
 - 泉区社会福祉協議会主催の「福祉の作品展」に利用者が作成した書道や手工芸品などを出品し、作品展への見学にも参加し地域の方々との交流も図った。

- 主な指標

- 入所

※（ ）の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	95.6%	97.6%(+2.0%)	98.0%(+0.4%)
平均要介護度	3.8	3.9(+0.1)	3.8(▲0.1)
単価(人・日)	14,931円	15,080円(+149円)	15,280円(+200円)

- ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	119.7%	110.5%(▲9.2%)	99.0%(▲11.5%)
平均要介護度	2.8	2.7(▲0.1)	2.8(+0.1)
単価(人・日)	14,896円	15,220円(+324円)	15,278円(+58円)

平成デイサービスセンター泉(通所介護)【定員:20名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 平均稼働率が83.2%と昨年より6.8%上昇し、一人当たりの単価の上昇や人件費率の低下もあり、昨年度より約500万円増となった。

- 稼働率

- 新型コロナウイルス等の感染者も出ず、登録者数も1週間を通し安定していた。
- 利用者からの口コミで新規利用や問い合わせが増え、送迎が対応できない人も家族送迎で利用したいとのお話もあり、利用者増に繋がった。
- 利用中の方の利用日数の増加も増えた。

- 収支改善

- 横浜市物価高騰対策支援助成金を申請

- 新型コロナウイルス感染症のサービス提供体制確保事業補助金を申請

- サービスの質

- 専従の機能訓練指導員による個別機能訓練が実施できることが、他の事業所にはない売りとして評価されている。
- 機能訓練指導員が、福祉用具の購入など在宅生活での困りごとの相談も積極的におこない喜ばれている。
- イベント開催時は、参加型の催しを企画し、楽しんでいただけた。
- 自立支援の一環として、好きな時に好きなものを飲んでいただけるように給茶機を導入し喜んでいただいている。
- 配膳や食器洗いなどできることはお手伝いいただけるよう声をかけ、活動性の向上を図っている。
- HPは1週間に1度更新し、最新の情報を提供している。

- 人材の確保、育成

- 併設特養の研修会に参加することで、サービスの質の向上を図っている。

- 主な指標

※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	76.4%	83.2%(+6.8%)	86.0%(+2.8%)
平均要介護度	1.8	1.9(+0.1)	2.5(+0.6)
単価(人・日)	10,203円	10,254円(+51円)	10,369円(+115円)

2024年 6月 4日

2023年度 事業報告

社会福祉法人 幸仁会

対象事業所

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

高齢者事業

ケアホーム花畑(特養・ユニット型)【定員:入所-72名 ショート-12名】

- 事業報告の概要
 - 業績等
 - 収益
 - 前年度比より減収となった。
 - ショートの稼働率が70%台に留まった。
 - コロナ特例、物価高騰、経営支援による補助金あり。
 - 稼働率
 - 病院・居宅等訪問させて頂き、新規獲得に努めた。
 - 区内の新規特養増設に伴いユニット申し込み者の分散化等の影響により申込者減少の影響があった。
 - サービスの質
 - より良いサービス提供の為に、下記の各対応に努めた。
 - ケアホーム花畑において2023年8月に起きた事故案件を受け、その後の対応として、施設の現状、案件に至った要因について、職員の意見、虐待防止委員会による検討調査、本部を交えた提案も鑑み、「花畑で良かった」と思える環境改善に向け取り組みを実施。
 - ご家族にも安心してご利用いただくために些細な事も含め、連絡、ご来訪時の情報共有を密に行うように努めた。
 - 書類の見直しを行い、ケアマネマニュアルを作成しなおし、ケアマネ業務の見直しを行った。
 - 管理者・相談員・ケアマネを1階に配置し連絡体制を整え、ご家族様への連絡や報告もスムーズに行える体制にした。
 - 事故対応等のマニュアル・事故基準等の見直し・更新・変更し、事故の予防・事故発生時の早期対応の実現に努めた。
 - 1月から14時としていた面会時間開始を10時からとし、ご家族の来訪を促した。ご本人様との交流の時間の増加に努めた。
 - 「ご家族への手紙」を再開させて頂いた。ご家族からのご意見を反映し写真を多めにする事とした。
 - 「虐待の芽チェックリスト」を実施、それに基づき職員聞き取りを行い、サービスの向上、援助の見直しを行った。

- 人材の確保、育成
 - 今まで使用して来た採用媒体、ハローワーク以外にも、新規の採用媒体の利用、近隣へのチラシ配布を職員にて行い、積極的な採用に努めた。
 - 退職、休職等の増加があるもグループの出向、当直職員の増員等でサービスの向上に努めた。
- 地域貢献活動
 - 地域包括と連携。地域の高齢者の相談センターを二度開催し地域交流を図った（参加者：一回目30名、二回目14名）。
- 主な指標

- 入所

※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	94.3%	90.5%(▲3.8%)	90.0%(▲0.5%)
平均要介護度	3.8	3.9(+0.1)	3.9(±0)
単価(人・日)	15,142円	15,266円(+124円)	15,349円(+83円)

- ショート

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	78.6%	76.9%(▲1.7%)	70.0%(▲6.9%)
平均要介護度	3.4	3.5(+0.1)	3.5(±0)
単価(人・日)	16,024円	16,288円(+264円)	16,381円(+93円)

ケアホーム花畑(特養・従来型)【定員:入所-36名】

- 事業報告の概要

- 業績等

- 収益

- 早目の受診、入院を行い、状態悪化を防ぐことが出来、長期入院、退去を防ぐことが出来た。

- コロナ特例、物価高騰、経営支援による補助金あり。

- 稼働率

- 複数の入居者の入院に伴う影響があったが、状態悪化の早期発見・早期受診・早期退院で稼働率の落ち込み減らせた。

○ サービスの質

- より良いサービス提供の為に、下記の各対応に努めた。
- 転倒等の事故が起きる毎にご家族、区と丁寧な話し合い、情報共有をしご不安・ご不満が出ない様にケースごとに丁寧な対応に努めさせて頂いた。
- 困難事例等は管理者が現場に入り職員と一緒に解決する姿勢を見せる事に努めた。管理者から積極的に職員に話しかけ、不安や悩み事を相談しやすい環境作りに努めた。
- 転倒、誤嚥性肺炎での入院の減少を目途とし、ADLの見直し、食形態の見直し等を適宜行い、減少に努めた。
- 研修の強化として
 - 12月 1月「高齢者虐待研修」全職員参加で実施
 - 2月 外部講師による「アンガーマネジメント研修」の実施

○ 人材の確保・育成

- 今まで使用して来た採用媒体、ハローワーク以外にも、新規の採用媒体の利用、近隣へのチラシ配布を職員にて行い、積極的な採用に努めた。
- 退職、休職等増加もグループの出向で対応、サービスの質の維持・向上に努めた。

○ 地域貢献活動

- 報道の前後より地域包括と連携。地域の高齢者の相談センターを二度開催し地域交流を図った(参加者:一回目30名、二回目14名)。

● 主な指標(ショート含む)

※()の数値は対前年度の増減

	2022年度	2023年度	2024年度 目標
稼働率	86.4%	97.2%(+10.8%)	98.0%(+0.8%)
平均要介護度	4.0	4.1(+0.1)	4.0(▲0.1)
単価(人・日)	13,062円	13,376円(+314円)	13,200円(▲176円)